

下野新聞社杯第56回県学童軟式野球大会さくら市予選開催要項

1. 主 催 さくら市野球連盟
2. 会 期 令和7年6月14日(土)・21日(土)・22日(日)
予備日：28日(土)・29(日)
3. 会 場 さくら市総合公園B球場
4. 参加チーム さくら市野球連盟に登録したチームであること。
チームは、監督、コーチ2名の他、選手25名以内で編成し、必ず責任者をつけること。
責任者は、成人とし男女を問わない。また、チームの全てのことに關して責任を持って処理する。
5. 適用規則 2025年公認野球規則及び競技者必携「学童に関する事項」ならびに別に定める大会特別規則を適用する。
6. 使用球 (財)全日本軟式野球連盟公認球健康J号とし、毎試合2個チーム持ちとする。
7. 選手登録及び 指定の選手登録申込書及び参加料8,000円を代表者会議時に持参してください。
8. 代表者会議 令和7年6月6日(金) 午後6時30分から
氏家公民館 第2研修室
9. 開 会 式 開会式は行わない。
10. 表 彰 優勝・準優勝チームを表彰する。
11. 競技方法 (1)大会は4チームによる総当たりとする。
(2)全試合6イニングとし試合成立の回数に関係なく試合時間は90分とする。
(3)同点の場合は時間内でも延長戦は行わず、大会特別規則を適用し勝敗を決する。
＜大会特別規則＞
継続打順で、前回の最終打者を一塁走者、その前の打者を二塁の走者とする。すなわち、0アウト・二塁の状態にして1イニングを行い、得点の多いチームを勝ちとする。
なお、勝負が決しない場合は抽選とする。
(4)全試合5回以降の攻撃を均等に完了し7点差が生じた場合はコールドゲームを適用する。
(5)全試合、日没、降雨コールドの成立イニングは4回とする。
(6)投手の投球制限を次のとおり適用する。
①1日70球以内(4年生以下は60球)
②規定投球数に達した場合、その打者が打撃を完了するまで投球できる。
③バークにかかわらず投球したものは投球に数える。
④タイブレークになった場合は、1日の規定投球数以内で投球できる。
⑤準備投球や牽制球、送球は投球数としない。

(7)勝敗が同位になった場合の順位決定

(i) …総失点の少ない方を上位とする。

なお、総失点が少ない場合であっても、コールドゲームにより敗退した試合があるチームを下位とする。

また、両チームともにコールドゲームでの敗退が無く勝敗が同位の場合は、当該チーム同士の対戦において勝利したチームを上位とする。

(ii) …勝敗が同位且つ失点が同点且つコールドゲームによる敗戦の数が同位の場合は抽選とする。

12. 服装・用具

(1)同一チームの各選手（監督、コーチを含む）は全員、同色同型、同意匠のユニフォームとし、アンダーシャツは同色のものでなければならない。

(2)スパイクは、選手は金属製のものは禁止する。

(3)試合中、打者、走者、次打者、ベースコーチはJ C B B公認の両耳付きヘルメット、捕手は公認マスク、プロテクター、レガース、ファールカップ及び捕手用ヘルメットを着用しなければならない。また、全てのヘルメット、捕手用マスクはS G基準のものでなければならない。

13. 運営方法等

(1)ベンチに入れる人員は、登録されユニフォームを着用した監督（成人であること）、コーチ2名、選手25名以内とし、その他、チーム責任者、マネージャー、スコアラー各1名とする。

(2)給水補助者（2名以内）がベンチに入ることを認める。

(3)試合中はもちろん、練習中でもユニフォームを着用していない者はグラウンドに出られない。また、コーチはベンチを出て指示を出してはいけない。

(4)投球制限の球数カウントは、各チームより成人1名を選出して頂き、大会本部設置のカウントボードにて投球数を管理し、それを正式投球数とする。

(5)公認野球規則書、競技者必携を携行すること。

(6)前の試合の3回終了時に監督と主将が打順表を提出し攻守を決定する。

(7)攻守決定後、先発投手のみブルペンを使用し投球練習ができる。

(8)当日試合の実施の判断は、午前6時30分に現地にて判断する。

14. 健康管理

(1)選手はあらかじめスポーツ障害保険に加入しておくこと。また、試合中におきた負傷については、チームにおいて一切の処理を行うものとする。

【大会に関する問合せ】

さくら市野球連盟 事務局 佐藤 Tel 090-2329-8794

※月曜～金曜日は午後5時30分以降にお願いします。